令和８年 10 月 13 日

第２学年保護者様

丹波篠山市立丹南中学校
校　長　　足立　貞治

令和８年度　丹波篠山市学力・生活習慣状況調査の調査結果について

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申しあげます。平素は、本校教育活動に対しましてご理解とご協力をいただいておりますこと厚くお礼申しあげます。

さて、１学期に実施しました全国学力・学習状況調査および丹波篠山市学力・生活習慣状況調査の本校の分析結果をまとめましたので、お知らせします。

なお、本調査は、生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的としています。調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえつつ、保護者や地域の皆様の理解と協力のもとに、適切に連携を図りながら、一層の指導上の工夫改善に努めますので、学校の教育活動に対してご支援いただきますようお願いいたします。

●国語

【目標値に達している領域】
・話し合いの内容を聞き取る
・漢字を読む・書く
・文法・語句に関する事項
・説明的・文学的な文章の内容を読み取る

【課題のある項目】
・文章を整える
・文章を書く

総合的に目標値を７．４ポイント上回り、大変良好な結果となりました。領域別では、「書くこと」以外のすべての分野で目標値を上回っていました。特に、「漢字の読み書き」や「説明的な文章の読み取り」は、目標値を１０ポイント程度上回る結果でした。

一方で「文章を書く」の項目のみ、目標値を７ポイント下回る結果となりました。何も書かず白紙のまま提出する無解答の割合も高く、文章を書くことに苦手意識を持っている生徒が多いことが伺えます。

今後の対策としては、強みである「文章を正しく読み取る力」を活かして、「決まった文章の形（テンプレート）」を活用したり、指定されたキーワードや文末などを使って、短い文章を組み立てたりする練習を重ねていきたいと考えています。

●数学

【目標値に達している内容】
・正の数・負の数
・文字式
・一次方程式
・比例・反比例
・平面図形
・空間図形
・データの分布の傾向

【課題のある内容】
・特になし

総合的に目標値を６．４ポイント上回っています。内容別に見ても、すべての内容で目標値を上回っており、良好な結果です。小問別では、「関数についての理解」、「図形の移動方法の説明」について目標値を下回っていました。また、活用問題について更に力をつけていくことが課題であると考えます。今後も、基礎・基本の徹底を図ることができるように、定期的な小テストの実施、自主学習ノートの充実に力を入れていきたいと思います。また、思考力を磨いたり、説明したりする機会をつくっていきたいと思います。

●生活習慣・学習習慣について

＜全体的な考察＞
全体的におおむね良好な結果です。昨年度と比較して「周囲への相談のしやすさ」が向上している一方で、「主体的な発信力」や「学習習慣」に課題がみられます。

＜具体的な考察＞
1. 周囲への相談と支えの変化
相談相手としての安心感の向上: 「本当につらいことがあったときに相談できるか」という項目では、家族（R7：80.5% → R8：83.6%）および先生（R7：56.8% → R8：67.2%）の両方で肯定率が向上しています。特に先生への相談については、昨年度は全国平均を下回っていましたが、今年度は全国平均を 7.6%上回る結果となりました。一方で、「家の人は気持ちを分かってくれているか」という問いに対しては、97.4%から 91.4%へと 6.0%低下しており、安心感はあるものの、心情的な理解を得られている実感はやや薄れている傾向がみられます。

2. 学級生活と集団意識
規範意識の維持と責任感の低下: 先生の言うことを守る姿勢は 96.5%と高い水準を維持していますが、掃除や係の仕事を責任をもって行う割合が 97.5%から 87.1%へと 10%以上低下しており、集団の中での個々の役割遂行に課題が出ています。
承認欲求・存在感の希薄化: 「クラスのみんなが自分に注目してくれる」と感じる生徒は、昨年度の 44.9%から 32.7%へと低下し、全国平均よりも 24.2%も低くなっています。これは、昨年度の考察で挙げられていた「個々の存在感や承認の機会」という課題が、さらに深刻化していることを示唆しています。

3. 発信力と学習・生活習慣の課題
発信力の停滞: 話し合いでの積極的な発言（60.4%）や、他者の発表への質問（9.5%）は、昨年度よりもさらに低下しました。特に質問をする割合は 1 桁台にまで落ち込んでおり、全国平均との差も 21.0%に広がっています。
学習習慣の大幅な悪化: 最も顕著な変化は学習習慣に見られます。「学校の授業以外でほぼ毎日勉強する」生徒の割合が、昨年度の 23.7%から 10.3%へと、13.4%も大幅に低下しました。これは全国平均より 14.1%も低く、極めて深刻な課題と言えます。
生活習慣: 翌日の持ち物確認についても、58.5%から 52.6%へと低下しており、計画的な行動を身につけるという昨年度の課題が継続しています。

＜具体的な対策＞
R8 年度の結果からは、昨年度に引き続き、「一人ひとりが主体的に関わり、認め合える環境づくり」が急務であると言えます。特に、先生への信頼感が高まっているという好材料を活かし、授業内での質問や発言を促す指導、および大幅に低下した家庭学習習慣の立て直しに向け、「互いを認め合える雰囲気」の醸成と活躍の場の提供、「自己肯定感」を支えとする習慣化、自己規律と責任感の再構築、教師との信頼関係を活かした個別支援といったアプローチを進めていきます。